

Citation: Struijs P.A.A, Smidt N, Arola H, Dijk van C.N, Buchbinder R, Assendelft W.J.J. Orthotic devices for the treatment of tennis elbow. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2002, Issue 1. Art. No.: CD001821. DOI: 10.1002/14651858.CD001821.

CRG名: Musculoskeletal

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 26 October 2001.

Clib issue No.; N/U: 2007 issue 4; -

背景: 外側上顆炎(テニス肘)は頻りに報告されている状態である。さまざまな治療戦略が記載されている。適切な戦略は依然として特定されていない。

目的: テニス肘治療に対する矯正装具の有効性を評価する。

検索戦略: Medline、Embase、CINAHL、Cochrane Controlled Trial Register、Current Contentsを1999年5月まで検索し、検索したすべての論文の参考文献リストを検索した。その後追加された試験については、本主題の専門家に問い合わせた。

選択基準: 外側上顆炎と診断された人たちについての記載があり、治療戦略として使用した矯正装具を比較しているすべてのランダム化臨床試験(RCT)を、選択の適否について評価した。

データ収集と分析: 2名のレビューアが選択した試験の妥当性を独自に評価し、関連するアウトカム指標のデータを抽出した。二値アウトカムは相対リスク(RR)、連続アウトカムは標準化平均差(SMD)として表示し、両アウトカムとも対応する95%信頼区間(95%CI)を示した。統計学的な統合およびサブグループ解析を試みた。

主な結果: 5件のRCT(各群7~49例)を含めた。妥当性スコアは、11項目のうち肯定的項目の3項目~9項目であった。試験数が少なかったため、サブグループ解析は行わなかった。限られた数の選択された試験はアウトカム指標をほとんど示しておらず、長期の結果は限定的であった。試験間で異質性が大きかったため統合は可能でなかった。

レビューアの結論: 外側上顆炎に対する矯正装具の有効性についての決定的な結論は下せない。十分な検出力のある適切にデザインされ、適切に実施されるRCTがさらに必要である。

(監訳 吉田雅博)

翻訳公開日: 08年1月11日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。